

## リーズ・トリニティ大学（イギリス）

今学期は3科目履修することとなりました。

### Academic Skills, Personal and Professional Development

子ども・若者・家族学科におけるアカデミックおよび学習スキルの紹介を行う。

<授業形態> 講義とゲストスピーカー講演

<学生数> 20人

### Sociology and Psychology of Childhood

社会学、家族学、児童学の基本的な分析ツールを用いて、子ども、若者、家族、コミュニティの社会的背景を研究する。また、心理学的視点から、発達心理学におけるいくつかの主要な理論について考察し、また社会的要因がどのように子どもの発達と心理・情動の幸福に情報を与えることができるかを検討する。

<授業形態> 講義とディスカッション

<学生数> 20人

### Education, Inequality and Social Justice

教育分野における社会的不平等の主要な原因である、階級、ジェンダー、民族的背景などを加味し、教育的不平等と機会のパターンに対する政策の影響を分析する

<授業形態> 講義とディスカッション

<学生数> 5人

上記の3つの講義を受講します。前期の授業を通して、生徒と先生や家族との関係性や学校で提供されるカリキュラム、地域コミュニティとの連携など、教育に関わる様々な要素について学んできました。これまで国際開発の教育分野に興味を持っていましたが、教育を科目として勉強してみると、国際開発への興味が薄れ、教育分野に深く関わりたいと思うようになりました。さらに最近では、2年ほど続けているオンライン英会話Camblyを活用して、様々な国の教育システムについて質問をしていくなかで、日本の教育についてさらに知りたいと思うようになりました。ゼミでの研究も国際開発の側面が強かったのですが、帰国後は日本の教育に焦点を当てた研究を行いたいです。

## サザン・メイン大学（アメリカ）

1ヶ月の冬休みが終わり、春学期が始まりました。まだ始まってから1週間弱しか経っていないのに、あまりにも雪が降りスノーstormが頻繁に起こることから、もう既に2回も休校になっています。

私は寮に住んでおり、寮があるキャンパスで授業を受けているのでそこまで影響は受けませんが、自宅から通っている生徒や教授などが運転して学校まで来ることはかなり危険だと思うほどには降っています。ありがたいことに、課題などは既に一覧で出ているので、急な休校でも先に予習をしたり、小テストを事前に受けておいたりするなど、部屋でダラダラするのではなく、いつも通りの時間に起きて生活するなど有効な時間の活用をするように心がけています。

秋学期はESLで生徒数も少なく、かなり優しい環境にいたところから、今は他のアメリカ人生徒と同じ土俵で戦うことになり緊張しながら、毎日授業を受け、勉強しています。

## ヒューロン大学（カナダ）

### ・防寒具について

今年は比較的暖かい年のようですが、例年1月2月は気温がマイナス20度（体感温度はマイナス30度以下）になります。そのため日本から持ってきた防寒具では対応できないので、私は現地で調達しました。11月の終わりの週にブラックフライデーがあるので冬の防寒具などはそのセールでゲットするのがおすすめです。また、古着でも気にならないという方はvalue villageという古着屋さんでジャケットなどをゲットすることもできると思います。私はブラックフライデーでMasonville Mallの中にあるスポーツショップでスノーブーツとウィンタージャケットをゲットしました。

### ・クリスマス・ニューイヤーの過ごし方

私はクリスマスとニューイヤーをアメリカで過ごしたのですが、日本とは大きく違う文化だと感じたので取り上げます。

まず、クリスマスはKFCではなくターキー（グレービーソースやクランベリーソース付）を食べます。また、マッシュポテトやシュトーレン（滞在先の友達の祖父母がドイツ出身だったため）も食べました。日本だとクリスマスはカップルのイベントというイメージがありますが、カナダやアメリカでは家族で祝います。暖炉の上に靴下をぶら下げてプレゼント交換もしました。そして、一番驚いたのはニューイヤーの過ごし方です。クリスマスを盛大に祝う代わりにニューイヤーはただカウントダウンをして終わりでした。各家庭や人によるとは思いますが、若い人はクリスマスは家族と過ごし、ニューイヤーは友達とパーティーをしている印象です。

## チェンマイ大学（タイ）

### <タイでの年末年始に関して>

クリスマスと年末年始は、タイの中でも他の県に移動することも考えましたが、チェンマイで過ごしました。タイの学校は12月31日から1月2日までと、かなり短く設定されています。タイ人の友人の中には地元へ帰省をしようと言っている人も数人見受けられました。4月の旧正月（ソングランと呼ばれ、水かけ祭りが有名です）と中華圏の旧正月を含め、タイでは、三回新年を祝う機会があると言われています。

仏教国であるタイの人々の中には大晦日の年明けの瞬間も寺院を訪れ、読経を唱える人が多いようです。また、チェンマイの中でも各地でカウントダウンイベントが行われていました。私は旧市街地を囲う門の一つであるターペー門近くの会場のカウントダウンに参加をし、年明けの瞬間を迎えました。大きな特設ステージでライブが行われていて、カウントダウンの瞬間にはコムロイと呼ばれる空の灯籠流しと花火を目にすることが出来ました。日本にいる時とは全く違う新しい新年の迎え方を体験することが出来たことに感動し、改めて、延期をしてもチェンマイの地に来ることが出来てよかったと感じました。

